（仮称）子供・若者体験活動施設区部基本計画検討委員会（第１回）における主な御意見の概要

【事業内容について】

○これまでと違う、この施設の役割を確認したときに、この背景にあった議論としては、東京都の施設、基礎自治体や国と違って、都レベルの広域行政で、青少年の自立や発達に向けて提供できるものは何かということがあると思う。普段の日常のサービスでは提供できないような規模感のものが提供できたり、少し多様な課題を抱えた人たちの個別の対応といったサービスも広域行政の中で担っていける部分があるのではないか。

○基礎的学習の向上について、どういうところを役割分担しながら、コラボしていくのか。もしくは基礎自治体でも、今さまざまな福祉的な施策として、学習支援も既に行われている、そういったところとの、すみ分け、役割分担をどうするのかは、この施設としても考えていく必要性はあると思う。

○この施設自体、ずっと続けて運営されていく中で、そこの中でも社会に合わせて若者たちの変化だったり、彼らの新しい悩みとかニーズとか社会情勢に合わせたニーズを吸い上げて、実際に一緒に何ができるのかというところを考えていく機能が必要と感じている。

【事業スキームについて】

○運営の組織、体制は一元化しておかないと多分めちゃくちゃなことになる。しっかりとサポートする組織が絶対に要る。

○体育館とかプールを使いたい方は結構たくさんいらっしゃると思うが、そこをメインにしてしまうと、従来の使われ方と、あまり変わらないような気がする。新しい事業が、なかなか割り込めない話にもなりかねない。従来のやり方と、新しい事業との関わり方を、どのように想定するのかということが、気になるところ。

○単なる貸館や、宿泊がメインということでやると、東京都の施設としての意義付けは何だろということになってしまう。そういう中で、子供若者体験活動というところを、どのように実現していくのか。運営とか維持管理の事業者と、どういう関係を構築していくのか、その辺はかなり課題と思っている。それは今後、事業スキームにおいて、もっと議論を深めていく必要がある。

○これをどのようにスキームとしてやっていくかということになると、官民連携自体が、よく聞く抱えている課題として、性能発注であったとしても、要求水準だとか要件を示して、それを満たしていくという体制自体が、かなり保守的な運営に陥ってしまうような構造的な課題を抱えていると思う。そこに、きちんと創造的に協働していけるような仕組みを、考えなければいけないと、施設の行う内容からすると思う。そういうことをマネジメントしていくような設計や運営だとか、スキームを検討する段階にも、そういう仕組みを仕込めないのか、常にウォッチするような体制を組んでいけるとよい。

○対象が不登校、中途退学、多様な課題を抱えた状態にある人となってくると、学校教育だとか福祉行政だとか、いろいろなところで同じような課題に対して、やっていることがあると思う。そこと、ぜひ相乗効果が出るような形の連携も、きちんと表に出していくことがいいのかなと思います。

【運営のあり方について】

○こういった公共施設が担うべき、格差の是正のようなことに取り組むという観点が、今まで以上に重要になってくると思う。これまで通りのスポーツ団体とかシニアの方のサークルに使われるのは、もちろん施設がある以上、いいと思うが、例えば少し料金体系を見直したり、むしろ受益者負担を強調するところと、積極的に安くしていく部分を、ちゃんと作っておく中で、こだわりどころを運営面でも実現していく形が取れるとよい。

【体験活動について】

○体験というコンセプトが、そもそも持つ先入観、イメージみたいなものがあって、やったことないことをやっていくとか、広げていく。あるいは、利用者が受け身のようなイメージと感じられてしまうところもあるかと思う。一方、必要な体験の方向性のようなところを見ると、かなり深めていくとか、夢中になるというところもあるので、浅い広いだけに、とどまるようなイメージにならないことが必要。

○これまでは、ともすると子供たちに体験を与えてしまう。さっき受け身という話もあったが、子供若者にも入ってもらいながら、ただ体験活動を提供するだけではなくて、一緒につくっていくことが、これからはポイントになるだろう。新しい事業では、これまでのものをベースに、こだわりどころをもっと明確にしたり、力点を変えていくということだと理解している。

○青少年の余暇を楽しむ機会が作れるような、リフレッシュにつながる機会として用いていくということも、非常に重要な要素だと思うし、非日常の中だからこそ、それもしやすいという観点もベースとしてあるのではないか。ポテンシャルを引き出していく前に、マイナス状態をゼロにしていく、そういったポテンシャルを引き出していく前提のような機会を、作っていくのも非常に重要な要素かと思う。

○必要な体験の方向性について、一つ目が互いを刺激し合い、成長を応援し合うような体験、機会があればよい。何か彼らの自信を持って輝けるような場が、いろんな人たちを巻き込んで実現できる、そういった体験活動があれば、互いが刺激し合うような体験ができる機会が生まれるのではないかなと思う。二つ目として、自分自身の活動が促進されるという体験。自分だけで閉じこもっていたこのプロジェクトが、いろいろな人たちと協力し合うことで、その先の視点を獲得することも可能になるのかなと思う。ここで新しく何か作っていくのもいいし、ここに持ち込んで、さらに加速していくような、そういった機会があればよい。

【子供・若者の自主的な活動交流、運営等への関わりについて】

○若者が何か自分自身で考えて行動していくような機会を、いかに作っていくのかは、すごく大事な要素と思っている。企画や運営に関する取り組み、施設の運営に関する参画というプロセス自体が、いずれ社会へのプロセスに発展していくというような考え方の下で、そのような機会を作っていけると、より良いと思っている。ある程度の枠組みを、こちらで用意するというような取り組みもあると思うが、もう少し手前のところから、子供や若者の声を聞きながら一緒に企画運営して実行していく、評価または改善してくようなことがあっていいのではないかなと思う。

【NPO・団体等の参画・交流について】

○体験のほか、もともとのところで担い手や人材育成というようなコンセプトもあったかと思う。そういった、NPO の方、NPO の団体等の連携が、主になってくるとは思うが、そういったところも人が減ってきていることも、これから予測されると思いますので、体験を提供する側、担う側に主体的につなげていけるようなニュアンスが、もう少し事業の内容のほうで示せるとよい。

【施設について】

○こういった宿泊機能を持った施設というのが、災害時における宿泊施設の機能が避難場所としての機能として、かなり重要な役割を果たしてるところが事実としてあると思う。東京都として、そういった観点での期待が、もしあるのであれば、その要素も少なからずは考えたほうがいいと思っている。

○ハザードマップで、どのような位置付けになっているのか、液状化の影響がないのかとか、いろいろ確認をお願いしたい。